

泉南市民人権意識調査 報 告 書

平成19年3月

泉 南 市

は じ め に

泉南市長 向井 通彦



本市は、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。」という世界人権宣言及び基本的人権の尊重・国民主権・戦争放棄を三大原則とする日本国憲法の理念に基づき、すべての人々が真に人間として尊厳され、差別のない公正な社会の実現に努めてまいりました。1995（平成7）年には、差別のない明るく住みよい国際都市・泉南市の実現に寄与することを目的とする「泉南市部落差別などあらゆる差別の撤廃と人権擁護に関する条例」、いわゆる「人権条例」を施行し、1998（平成10）年には、「泉南市人権教育のための国連10年推進本部」を設置し、これらの施策の具体化に向け、2000（平成12）年に「人権教育のための国連10年泉南市行動計画」を策定しました。これらの条例や計画に基づいて「平和」や「人権」の尊重を基本とした、人権擁護に関する諸施策の積極的な推進に努めてきております。

これまでの取り組みの成果として、今日では、市民の意識として、人権問題への関心が深まり、人権問題に対する理解と認識が広がりつつあります。また、今日の人権擁護は、「平和」や「人権」の尊重を基本理念とした人権尊重の取り組みが、国内外の潮流となっており、これらのこととあいまって、市民の意識の中に人権教育の重要性に対する関心も高まりつつあります。

しかしながら、地域社会においては、今なお、同和問題をはじめとして、外国人、女性、子ども、障害者、高齢者、アイヌの人びと、HIV感染者やハンセン病元患者などの人権に関わる深刻な問題が存在しております。特に同和問題においては、今日なお、結婚問題を中心に依然として、忌避意識や差別意識が根強く残っております。最近では、新たな部落地名総鑑の発覚や、戸籍不正入手、さらにはインターネット上における人権侵害等、部落差別事象が跡を絶たないなど差別意識の解消が十分に進んでいない状況にあります。

本市におきましては、1991（平成3）年に第1回、1998（平成10）年に第2回、今回で第3回目となる市民人権意識調査を実施しました。前回の調査から8年が経過していることから、今般、前回調査との経年変化を探り、より今日的な視点から人権問題に関する市民の広範かつ多様な意識の状況・傾向を把握し、今後の人権啓発、人権教育の効果的な方策を検討するうえでの必要な基礎資料を得ることを目的として実施したものであります。今後、この調査結果を踏まえ、同和問題をはじめとする人権問題の課題を明らかにし、より効果的な啓発事業等の人権施策の積極的な推進に努めていく所存であります。

最後になりましたが、本調査の実施にあたり多大なご支援・ご協力をいただきました市民の皆さん並びに関係者の方々に厚くお礼を申し上げ、報告書発刊のご挨拶といたします。

目 次

I. 調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査項目.....	1
3. 調査設計.....	1
4. 回収結果.....	2
5. 報告書のみかた.....	2
6. 調査の精度.....	3
7. 調査にあたって.....	3
II. 調査結果の概要.....	5
1. ふだんの生活意識について.....	5
2. 人権についての意識や考え方.....	5
3. 差別問題や同和問題について.....	6
4. 同和問題や差別をなくすための取組みについて.....	8
III. 調査結果.....	11
1. 回答者の属性.....	11
(1) 性別.....	11
(2) 年齢.....	11
(3) 最終学歴.....	12
(4) 職種.....	12
(5) 居住年数.....	14
2. ふだんの生活意識について.....	15
(1) さまざまな価値観についての考え.....	15
3. 人権についての意識や考え方.....	19
(1) 「人権」から連想する言葉.....	19
(2) 男女の役割分担についての考え.....	22
(3) 男女に関わる事柄についての考え.....	25
(4) 子どもに関わる事柄についての考え.....	29
(5) 高齢者に関わる事柄についての考え.....	32
(6) 障害者に関わる事柄についての考え.....	35
(7) 外国人に関わる事柄についての考え.....	38
(8) 20年後の人権問題についての考え.....	41

4. 差別問題や同和問題について.....	45
(1) 「差別」についての考え.....	45
(2) 「被差別部落」や「同和地区」などを知ったきっかけ.....	49
(3) 同和地区に対する差別的な発言や行動を見聞きした経験.....	51
(4) 世間の人々が同和地区の人を意識していると思う時.....	59
(5) 子どもの結婚相手に対する調査の必要性.....	62
(6) 結婚相手が同和地区の人であるとわかった場合の対応.....	64
(7) 子どもと同和地区の人との結婚話が進んでいる場合の対応.....	68
(8) 同和地区に住んでいる人とのつきあいの程度.....	70
(9) 同和地区や同じ小学校区にある物件の忌避意識.....	74
5. 同和問題や差別をなくすための取組みについて.....	76
(1) 同和地区出身者に対する差別をなくすための取組みの重要度.....	76
(2) 学校での「同和教育」についての考え.....	80
(3) 同和地区に関する講演会や研修会への参加経験.....	82
(4) 人権問題の理解を深めるために現在学んでいること.....	90
(5) 人権問題の理解を深めるために今後学びたいこと.....	92
(6) 人権に関する宣言や条例などの認知度.....	95
(7) 人権について推進している施設の認知度.....	98
6. 自由意見.....	100
IV. 考察結果.....	101
附. 調査票.....	117
附. 単純集計結果.....	131